福島県立医科大学学術成果リポジトリ
FUKUSHIMA MEDICAL UNIVERSITY

平成29年度学術委員会萱間真美氏講演会報告：学術活動

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福島県立医科大学看護学部 公開日: 2018-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡邉, 一代 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000599

学　術　活　動

平成29年度　学術委員会　萱間真美氏　講演会報告

看護学部学術委員会委員　渡邉　一代

本講演会は，平成28年度看護学部学術委員会学術検討小委員会により計画された講演会を平成29年度看護学部学術委員会が引き継ぎ実施した．

本委員会では，将来を担う若手あるいは研究歴の浅い研究者の育成・支援を通して，看護学部の研究活動の活性化を図ることを目的に，例年外部講師による講演会と，学部内での研究交流会を開催している．以下は，萱間真美氏（聖路加国際大学大学院看護学研究科教授）による講演会の報告である．

テーマ：論文を書きたくなる査読をめざして
講　師：萱間　真美氏
日　時：平成29年８月23日（水）14時～15時30分
場　所：８号館Ｓ601教室
参加者：本学看護学部教員，附属病院看護師，会津医療センター看護師，大学院生　49名

〈講演内容〉

はじめは，論文原稿についてその種類と記載内容で重要なこと，著者資格について，投稿手続きについての概要を学んだ．論文原稿の種類は，主に原著論文，論壇，総説，短報，資料がありそれぞれには定義があるが，原著論文と研究報告の定義ははっきりしていない．記載内容で重要なことは，研究対象が人や動物である場合は倫理的に配慮をした旨を明記し，その研究倫理審査委員会での承認，承認番号も明記する．また，当該研究が受けた研究助成がある場合は「謝辞」の欄を設けて記載し，次に研究に対する利益相反の有無も記載する．著者資格では，著者と投稿された論文に重要な知的貢献をした者であり，著者資格に当てはまらない貢献者は謝辞に記載する．投稿の手続きをする場合は，投稿規定を熟読しチェックリストで原稿の点検確認を行う．

次は「私の体験」として，先生が Journal of Nursing Education に投稿したときの体験であった．査読コメントはページ毎に多くの修正の指摘があり厳しかったが厳しいコメントでも修正したい気持ちになれたと話され，その理由は，査読の中に修正に向かう気力を与えるような言葉が記載されていたからのようであった．その後萱間氏は JNE の査読ガイドラインを手に入れたい気持ちから JNE 査読者となったエピソードを添えられた．

また，萱間氏の研究である「質的研究方法を用いた看護学の学位論文評価基準の作成に関する研究」から“質的研究方法を用いた学位論文審査のためのガイドライン（萱間ら2009）の評価項目”を示して，真実性，透明性，転移可能性について学んだ．真実性とは，研究者の解釈や翻訳に都合の良いようにデータがゆがめられていないことである．日本語の研究を翻訳するときなどは注意が必要になると具体例を示された．透明性とは，どのようなデータを，どのように分析したかが分かることである．再現性は可能でなくてもよいが，手順は明確に示されていることが必要である．転移可能性とは，研究者が提示した概念が，実践者の毎日の実践を理解するために役立つことであり，実践者が実践を変革するためのポイントがつかめることである．

最後は，査読者の責務と査読を受ける場合の留意点についてであった．査読者の責務は，JNS 査読者ガイドラインに明確に記載されていた（配布資料参照）．査読を受けるときの留意点は，いろいろあるが３つのゴールデンルールがあり，１全てに答えること，２誠実に答えること，３根拠とともに答えることであった．

〈質疑応答〉

Ｑ１：質的研究が増えているなかで，時々真実性について気になる事がある．この場合は，著者の倫理観を信じるしかないのか．

Ａ：引用したデータから読み取るしかない．最初の査読時に研究の一貫性をみていくのが一般的である．最悪の場合は，生データの提示を求める．

Ｑ２：福島県の病院において，倫理委員会がない場合がある．病院看護部の承認のみの場合はどうしたらよいか．

Ａ：中規模病院以上にしか倫理委員会がないことが多い．事例研究の場合は，研究協力同意書を患者さんに記入してもらう事が一番よい．書面記入ができない場合は，患者さんからの口頭同意を取る．どちらもできない場合は，病名や性別の中身を変える方法もある．

〈アンケートの結果〉

感想では，勉強になり参考になった（13名）や具体的でわかりやすく（５名），真実性，透明性，移転可能性など考えることができた（４名），興味深い講演で，投稿や査読のトレンドが聴けた（５名）と記載されていた．また，経験に根ざした内容でありストレートに伝わったとか査読する側と査読される側のポイントが聞けてよかったなどがあった．

先生ご自身の経験もふくめて，項目によっては細部にわたり多様な内容であり，受講者の感想もさまざまあることから多く学びがあったことが伺えた．